

## 報告テーマ①[2041C]

### 二輪車文化を活かし安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案 ～メタデザインとして"Honda モデル"の普及に向けて～

プロジェクトリーダー 土井 健司

#### (1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、自動二輪が生活交通として定着している ASEAN 地域において、二輪車文化を活かしつつ安全な利用を促進する持続可能な交通まちづくりのモデルを提案するものである。三か年にわたる取り組みの中で、1～2年目においては ASEAN 地域における自動二輪関連事故の原因に関する系統的な把握を試みた。その結果、同地域では行政側のリソースの不足により、まず事故関連データの収集・分析が困難な状況にあり、有効な安全対策が講じられていないことが明らかにされた。しかし、その一方で Honda Vietnam（ベトナム）、A.P. Honda（タイ）といった二輪メーカーが多様な関係者と協働し、安全運転の普及や安全教育を主導していることが確認された。

本年度は、上述のリソース不足を補う方法として、ドローン空撮と AI 解析を用いたモーションパターンラーニングに基づくコリジョン・リスク分析を実施し、加えて二輪車メーカーによる安全教育効果および社会的インパクト発現構造を検証することを試みた。

#### (2) 質疑応答

Q. 交通安全に対する国民性は出てくると思うが、今回フォーカスしたベトナムでの取り組みが例えばタイや他地域で活かせるか。

A. ベトナム、タイ、カンボジアでの活動を見る限りでは、非常に共通していると思う。従って、水平展開も可能かと考えている。一方でフィリピンに関しては、二輪の使われ方がこれらの国とは違うので、これらの国とは一緒には考えられないと思う。

Q. モーションパターンラーニングを使っているが、ASEAN 地域で使われた手法でないものを使って評価しても問題はないか。ASEAN 地域の交通に特化した、学習を行う必要があるのか。

A. モーションパターンラーニングは事故そのものを見るのではなく、ヒヤリハットの検出のようなものである。もともとは北米で作られたものであるが、それを南米向けにチューニングしたのを使っている。南米向けのものを ASEAN で使えるとは必ずしも言えないが、ある程度カスタマイズすることで使えると思われる。

Q. ASEAN での教育を日本にもフィードバックすることで、日本のドライバーに対する教育や啓発にもなるのではないか。

A. その通りだと思う。日本では自転車歩道が走っていたが、現在では車道を走るようになった。そうした中で、自転車自身は危険回避行動や他者への配慮運転ができているかというそうではない。むしろ、自転車にこうした教育が必要であり、免許を持って安全にバイクが利用される方が安全な交通社会になるのではないかとと思う。日本よりもこうしたことがうまくできているのが台湾である。バイク、歩行者、自転

車がうまく共存している事例であり、学ぶべきことは多い。

(3) 出席者の感想など(一部抜粋)

- ・二輪車の文化と使われ方は地域と国で異なっていますが、安全と交通の目指すものは同一と思います。2輪車を基盤とした使われ方からの町造りの提案を期待します。
- ・日本で使用されているヘルメットにも同様の不具合が発生していることに、驚きました。
- ・何をすれば良いのか（例えばヘルメットを被れば、少なくとも頭部損傷による重傷度合いは減る）はどの国でも分かっていることだろうと思いますが、問題は、どの様にして被るようにするか、ではないかと思いません。本報告は、そのヒントを与えてくれたのではないかと思います。

※本資料は発表者本人の事前確認を行っております。また、質疑応答および出席者の感想は基本的に原文のままとしてあります。